

なかしべつ



この女性は誰でしょう!?

(開陽・丸田牧場にて)

なかしべつ新年号

もくじ

CONTENTS

- JAより新春のごあいさつ…………… 2
- 中標津町農業協同組合…………… 3
代表理事組合長 高橋 勝義
- 北海道農業協同組合中央会…………… 4
会長 宮田 勇
- 北根室地区農業改良普及センター…………… 5
所長 広瀬 勉
- 北海道立根釧農業試験場…………… 5
場長 大口勝啓
- 中標津町農業協同組合 青年部…………… 6
部長 鷲見 健
- 中標津町農業協同組合 女性部…………… 6
部長 井口 五子
- 地区別懇談会のご報告…………… 7
- 田舎に泊まろう……………～ 9
- ルーキーズカレッジ海外NZ研修報告 ～19
- 青年部全道大会…………… 20
- 理事会報告・12月組合動静…………… 21
- 掲示板～

新春のお慶びを申し上げます



お健やかに新年を
お迎えのことと存じます
皆さまのご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます

中標津町農業協同組合

| | |
|-----------|-------|
| 代表理事組合長 | 高橋勝義 |
| 副組合長理事 | 藤井美智夫 |
| 営農委員長理事 | 上村重光 |
| 管理購買委員長理事 | 鈴木祥幹 |
| 生産委員長理事 | 中村清雄 |
| 理事 | 川林忠 |
| 理事 | 篠村直文 |
| 理事 | 瀧場慎二 |
| 理事 | 清原賢一 |
| 理事兼務参事 | 乾村聖一 |
| 理事兼務管理部長 | 西村善行 |
| 代表監事 | 渡邊善行 |
| 監事 | 土井昭男 |
| 監事 | 瀧ヶ平義明 |
| 監事 | 川辺優一 |

外 役職員一同

2005年の我がJA

新年に寄せて



代表理事組合長 高橋 勝義

新年あけましておめでと
うございます。

皆様には2005年の門
出をご健勝でお迎えのこと
と心からお慶び申し上げま
す。

昨年中は農協事業運営に
対しまして、組合員の皆様
をはじめ、各関係機関の方々
には特段のご指導ご支援を
賜り厚く感謝を申し上げます。
次第でございます。

昨年は自然災害の多い年
で、本道に至っては特に台
風18号により被害額367
億円に及ぶ未曾有の農業被
害となり、農業者にとり辛
い年となりました。さらに
地震災害では新潟中越地方
を襲った大地震により田畑、
道路、ライフラインと全て
に甚大な爪跡により無惨に
も壊れ、被災者の多くは避
難所、仮設住宅での生活を
余儀なくされ、不安の日々
を送っており新年を迎える
今、複雑な思いであり、1
日も早い復興をお祈り申し
上げる次第です。

さて、JA中標津に目を
向けますと、豪雪、吹雪に

幾度と見舞われ、施設・機
械に被害を受け、除排雪に
も大変苦労した冬期間であ
りました。

春以降は、順調な天候に
恵まれ農作業全体が本格的
に動き出し、6月中旬より
牧草収穫作業なども稼動し、
質・量ともに確保ができた
した。

しかし、夏場は予想以上
に猛暑が続き、乳牛にも影
響が開始、酪農家にとつ
て対応にご苦労が多かった
ことと思えます。今現在で
も生乳生産が計画を下回っ
て推移しており複合的要因
を分析しながら、回復軌道
に乗るよう、指導体制に万
全を期して参ります。

一方、畑作関係では、だ
いこん・ブロッコリーにつ
いて暑さによる害虫発生、
空洞化など、品質低下から
苦戦し、価格・市況も思う
ほどにはならず残念であり
ましたが、流通における評
価は年々高まっております。

馬鈴しょ・ビートの主幹
作物は、予想以上の出来と
なり、特にビートは反当た

り6・1トと過去最高の出
来高でした。総体として豊
作年で終えた結果となり、
畑作物販売高も約10億円に
近い額となった状況であり
ます。

「明けた2005年の我
がJA」として何点か考え、
取り組みについて述べてみ
たいと思います。

取り巻く環境についてで
ありますが、世界的にはW
TO、FTAなど、今後も
最終段階に向け進展すると
見えています。その中で、関
税・補助金など国内政策に
も反映してくる時に全体の
見直し議論、三位一体、財
政難などが複雑に絡むこと
が予想されることから、我々
としてもしつかり主張し、
国内農業の方向性に向け積
極的に探って参ります。

農協事業、特にAコープ
あるる、スタンド、営農資
材課などは大手資本の進出
により、大きく影響を受け
ることが予想されます。今
日までの実績と信頼、安心
と安全をさらに提供できる
体制と攻めの姿勢を持って

組織として力を結集し、最
大限の努力が必要と考えて
取り組んで参ります。

組合員の営農生産につい
ては、樹立した営農計画達
成に向けて、既に動き出し
ております。諸課題も引き
ずりながらになります。ま
ずは計画達成に向けて励
んでいただきますようお願い
しております。

最後になりますが、この
1年は我がJAにとりまし
て総合力を試される極めて
重要な意味を持ちます。前
号の組合長談話でお示しを
しました「この時にこそ」
と胸に刻み、共に同じ思い
を持って乗り越えていきたく
いと強く望んでおります。

合言葉に集結せよ、高い
目標と理想に向かつて！
結びに組合員をはじめJA
Aご利用の皆様にとりまし
て平成17年が輝かしく希望
に満ちた年でありますこと
をご祈念申し上げます、年始の
ご挨拶と致します。

新年にあたり

1人は万人のために 万人は1人のために

北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇



謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年の北海道は災害の多い年でした。特に9月に発生した台風18号は、本道を直撃し全道の広い範囲を暴風域に巻き込み、記録的な被害をもたらしました。家屋・畜舎の倒壊や損壊をはじめ農作物や園芸ハウス施設などにも多大な被害が発生し、被害総額は367億円にのびりました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、食料・農業・農村・JAを取り巻く環境は、WTO農業交渉が昨年7月にその枠組みの大枠が合意され、交渉期限も本年12月の香港閣僚会議まで延長されました。この大枠合意により、今後の農業交渉は、具体的な数値を伴う「モダリティ」をめぐる次の段階に

入り、改装方式や関税削減方式をはじめ先送りとなっているセンシティブ品目扱いなど、具体的協議事項が山積しており依然として予断を許さない状況です。一方、食料・農業農村基本計画の見直しに向け、担い手対策や経営安定対策、農地対策、農業環境・資源保全対策などの議論が大詰めを迎え、北海道農業にとっては大きな転換期に直面しております。北海道の農業者が将来に希望を持つて安心して農業に携わることが出来る制作の実現に向け万全を期して行きたいと思えます。

また昨年は一部で食の安全と信頼を揺るがす問題が発生し、消費者の不安が拡大しました。JAグループは引き続き「共生の大地北海道」をキーワードに、「食と農 信頼の絆を育む北海道農業の

展開」「組合員と地域の信頼に込めるJA経営の展開」に取り組み、消費者に信頼される安全・安心な農畜産物の提供と、地域に信頼されるJA事業の展開を目指していききたいと思います。いよいよ本年はWTO農業交渉、EPA交渉が本格化し最大の山場を迎えます。

北海道農業が日本の食糧供給基地として確固たる地位を築き、食糧自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すために、日本農業の存在自体を否定するモダリティ案は断じて認めることが出来ません。日本提案が認められるよう地域住民との連携を強化し運動を盛り上げていききたいと思います。

これまでの社会はひたすら物質的豊かさを追い求め、その結果、経済効率、企業優先の社会となり資源や環

境の破壊をもたらしてきました。しかし、環境や資源、安全などが重視されるようになり農業、JAに対する見方も随分変わってきました。競争から共生の社会へ時代は変化しています。いまこそ「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念を全員が意識し「共生の世紀づくり」に邁進しようではありませんか。

JAグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組んでまいります。最後に、本年は災害が無く豊穡の出来秋を迎えることができよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



北海道立根釧農業試験場
場長 大口 勝啓

技術開発とフィールド試験により支援

新年明けましておめでと
うございます。平成17年の
新春を迎え、謹んでごあい
さつを申し上げます。

今年H.T.O農業交渉が、
昨年合意した枠組みに基づ
き、具体的な関税削減方式
や数値目標を詰める交渉が
始まるほか、国内において
は、今後の我が国農政の羅
針盤となる新たな食料・農
業・農村基本計画が決定さ

れ、一層強まる国際化の進
展に対応した国内農政の転
換が図られようとしていま
す。

こうした中で、根釧地域
の酪農が、今後とも持続的、
安定的に発展していくため
には、恵まれた自給飼料基
盤を最大限に活かしながら、
家畜ふん尿の適切な利用な
ど環境と調和しつつ、消費
者に信頼され、支持される

安全・安心な生乳生産に取
り組んでいくことが必要と
考えております。

根釧農業試験場では、農
家のこうした取り組みを支
援するため、家畜の健康維
持や環境保全と生産の効率
性が調和するような技術等
の開発に一層力を注いでま
いります。

また、開発された技術を
速やかに普及するため、現

場のフィールドを対象とし
た試験にも積極的に取り組
むこととしておりますので、
皆様には試験場の活用と合
わせて、今後ともこうした
面についてのご支援、ご協
力をお願いいたします。本年が
皆さまにとりまして健康で
希望に満ちた明るい1年と
なり、また、豊穡の年とな
りますことを心からご祈念
申し上げます、念頭のご挨拶と
させていただきます。

営農指標計算表により今を見極め

新年明けましておめでと
うございます。皆さまご健
勝で輝かしい新春をお迎え
のこととお慶び申し上げま
す。

また、日々の農作業に精
を出され、特に乳質向上と
新作物への取り組みは、そ
の成果も大きく、日頃の努
力の賜と心より敬意を申し
上げます。

さて、近年の情勢の大宗
を見ますと、地方社会の確
立に向けては、農業のさら
なる体質強化が要であると
存じます。この体質強化の
ためには、所得額の増加・
安定に加えて、「所得率も
含めた経営内部・効率」に
目を向けることが必須と考
えます。このための具体的
な着眼点例としては、次の

事項が挙げられます。
「作業の精度・質の点検」
「部門別原価と総コスト
の精査」
この第一歩に向けて普及
センターでは「営農指標計
算表」を作成いたしました。
実際の経営データをパソコ
ン入力することで、その経
営全体像を診ることができ
ますし、部門別のコスト計
算もできるものです。現在
を点検し、「今から、ここ
から」の気概が新たな飛躍

を生み出し、安定への道に
つながります。

本年が、皆様にとってご
多幸であり、新たな第一歩
を刻む年でありますようご
祈念申し上げます、年頭のご挨拶
といたします。



北根室地区
農業改良普及センター
所長 広瀬 勉





JA中標津女性部
部長 井口五子



JA中標津青年部
部長 鷺見 健

地域の中の1人として行動を

新年明けましておめでと
うございます。新しい年が
希望に満ちた年となります
よう心よりお祈り申し上げ
ます。

さて、昨年を振り返りま
すと、2万トンの脱脂粉乳在
庫過剰解消対策が実施され
ましたが、夏の猛暑にも飲
用牛乳の消費が伸びずに脱
脂粉乳の在庫が減らないと
いう、生産者には大きな不

安要素を残すことになり、
これからも、現場の声を国
へ伝えて行かなければなら
ないと思います。

また、昨年は、この地域
の将来を大きく左右する羅
白町との合併という課題も
住民投票の結果、自立の道
を歩むことになりました。

この結果は我々ひとり一
人が重く受け止め、大切な
子ども達の世代のためにも

経営参画、パートナーとしての意志の反映

謹啓 ご家族お揃いで新
しい年を迎えられましたこ
とを心からお慶び申し上げ
ます。

昨年は、大雪・猛暑・台
風・地震など一年を通して
自然災害が相次ぎ、全国各
地で農業者の経営をゆるが
す被害に見舞われました。

私達女性部は、昨年、役
員を一新し、これまでの歴
史を重んじつつ、新しい組

織づくりに取り組んで参り
ました。また、女性部組織
基盤である、「いのち」「自
立」「共生」「組織」につ

いて、生命を育み守ること
の大切さを、共に生き共に
学ぶ組織活動の中からお互
いに刺激・理解し合うこと
で、家族や地域の活性化を
図って参りました。

依然状況のかわらない農
業情勢ですが、そんな時こ



札幌のSTVテレビなどでPRしました

地域が一丸となっていかな
ければなりません。

そ、今私達に必要なことは、
時代の状況変化を敏感に察
知、反応し、自分達で少し
ずつ「かわろう かえよう」
ということなんです。状況に流
されず、自らがステップア
ップを試みて「かわりまし
た かえました」となるよ
うに、できることから実践
してみましよう。そして、
達成する喜びとパワーで、
家庭や地域も活気づけると
共に、農業経営への確実な
参画、女性として、パート
ナーとしての役割をしっか

我々青年部は、昨年新た
に、一般の方々をも対象に
したホームページ活用の一
ミナー、商工会青年部との
交流スポーツ大会なども企
画・運営しました。一昨年
前から行っている親子農業
体験事業と併せて、今後も
この様な行事を通じて地域
とのつながりを大切にして
欲しいと思います。最後に
組合員の皆様には、今後も
我々の活動にご理解とご協
力をいただきますようお願い
いたします。

りと担い、意志反映をして
いきたいと思います。
今年一年、気持ちにゆと
りを持って過ごせる年にな
りますよう、皆様のご健康
とご活躍をご祈念申し上げ
ます。

地区別懇談会

今回は「平成16年度10月末の主な事業概況について」、「臨時総会の開催と提出議案について」、「農協広域石油宅配センター(JAOC)への参画について」の大きく3つの議題について懇談いたしました。

平成16年12月1日から3日間の日程で地区別懇談会を開催し、全7地区で合計63人の皆さまのご出席をいただき、和気あいあいとした雰囲気の中、で取り進められました。

皆様の「ご意見・ご要望」は 事業に反映させて参ります

生乳の生産については、11月末単月の実績が前年対比98.9%。累計では、101.4%と下がってきている傾向にあります。

農産物については、今年が天候が良好で高い収量が確保でき、特に「てん菜」については過去最高の出来秋を迎えられました。

購買事業では、現在の市況と今後の出店を控えるセル

前年10月末との対比では、全般的にほぼ順調な展開となっており。特に貯金残高については、147億円となり、前年同期比6.7%の伸び率で、平成16年度末目標の143億円を超えた実績であります。

禁となります。ペイオフに対する他行からの流入や「ある」効果による顧客数の増加など、地域の金融機関として信頼を得た結果が現れているものと思われ。金融事業をはじめとして、計画については概ね達成するものと想定しております。

フスタンドの情勢と影響についてご報告いたしました。

生活店舗の売り上げについては、11月も堅調に推移してきており、消費税の総額表示の影響により、手数料率が若干、低くなりました。新規出店の大型複合店舗に対してはメリットを十分にアピールして立ち向かっていきたいと思います。

また、収支状況については、9月末の予算統制の結果も併せてご報告させていただきます。平成16年度当初

結果になることは間違いないう見込みをしております。2つめの議題となる「臨時総会の開催と提出議案について」は、法改正による共済規程の変更が必要となり、平成17年4月1日施行しなければならぬことから、平成17年6月の通常総会を待たずに総会付議が要るために臨時総会を開催させていただきます。運びとなります。

しかしながら、本総会の議案がこの1点のみであることと、12月の多忙時期であることから、書面議決を基本とし、特に参集は求めないことといたしました。今回の共済規程変更については、農協がどのような状態になっても安心して共済契約に加入できるようにJAと共済連が共同で元受けになることとしたものです。

もう1点の議題「農協広域石油配送センター(JAOC)への参画について」は、燃料の配送コストをさげるための効率化拠点が南中に完成しました。組合員の皆さまをはじめ、お客様には従来通りの利用方法となりますのでご安心いただきたいと思います。

また、家畜排せつ物処理法が11月に施行されましたが、皆さまのご理解を得て早い段階から整備に努めた結果、他の地区と比較しても非常に高い96.6%の整備率となっていることについてご報告いたしました。他地域で目的外使用により指摘を受けていることが報道されており、皆さまにおかれましても、調査などで指摘を受けることがないよう今後とも適正な管理に努めていただきますようお願い申し上げます。

当農協は本年度リフレックス枠を合わせて12万2千332トという生乳生産枠を確保しておりますが、更なる努力に期待したいと思います。そのほか、乳質乳価を加味した乳代の精算になる件などについてご報告いたしました。

12月ということでは何かと忙しい中の懇談会となりましたが、今回も多く皆さまのご出席をたまりません。皆さまがどうかご意見いただき、皆さまからいただいた意見につきましては、十分に参考にしながら今後の事業展開に反映させて参りたいと思います。

女優の西村知美さんが 開陽・丸田牧場に1泊しました



TV-TOKYO(東京)系列の全国ネットワークで、毎週日曜日夜に放送されている「田舎に泊まるっつ」の平成17年1月1日元旦3時間スペシャル番組に、当農協管内の丸田良夫牧場(開陽)が舞台となって放送されます。番組取材の様を今回、同行取材することができました。番組のPRも兼ね、おめでたい本誌の新年号ということもありますのでご紹介したいと思います。

「田舎に泊まるっつ」という番組は、芸能人が自分が行きたい田舎にアポイントなしで訪れ、1泊させてもらうことができるか? という飛び込み企画。通常、何軒かアポイントなしの飛び込みで廻った末に泊めてもらうことになり、一宿一飯のお礼にその宿泊先の仕事を手伝って帰るといのが放送の流れとなるほどの企画で、一泊

でも自分の息子や娘のように迎えてくれる田舎の人って良いなあと思わせられる番組です。さて、今回の番組企画ゲストは、女優の西村知美さん。西村さんの望んだ田舎が地球が丸く見える田舎ということだったため、中標津がロケーション先に決まったものです。

ロケのため東



行は釧路空港へ到着。レンタカーで中標津入りし、午後1時頃から開陽台の風景を撮影してスタート。開陽台から降りて歩いて民家を探す西村さん。

数件の民家や農家を当たったものの、ご当地中標津では、午後4時過ぎは搾乳作業のまった中。なかなか家主と話ができず、またテレビでの姿が普段の姿の西村さん。なかなか積極的「泊めて下さい」とは言えません。

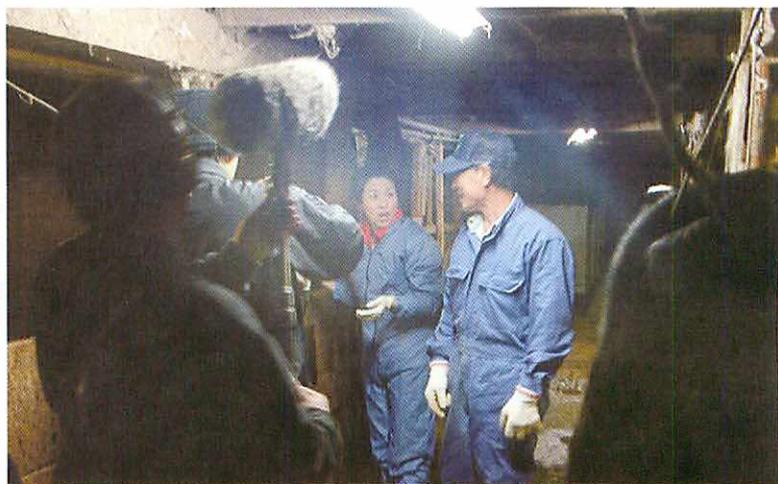
そうこうしているうちに、寒さが厳しさを増し、下半

身が冷えておトイレにも行きたくなってきました。今回の宿泊先となった丸田牧場でも、もう搾乳作業を始める前で、お父さんの良夫さんお母さんの光子さん、酪農実習生の岸本さんが3人事務所で仕事の打ち合わせをしていたところに訪れた西村さんの第一声は「おトイレを貸して下さい!」

あれ? 宿泊は!?

かくして、おトイレを済ませた西村さんは宿泊の話を見事に切り出し、お父さんの快諾を得たのです。そして、すぐに仕事の手伝いを申し出たのは、西村さんの人柄が何えませんが、いきなりのツナギ姿にも何とも言えないオーラが出ていますよ。(表紙参照)

牛の乳拭きやミルクカ付け、餌やりなど、ロケだからちよつと手伝って終わりかと思いきや、目一杯最後まで手伝い、夜が深まり廻りが真っ暗になった頃、一連の作業を終えてお父さん、お母さん、岸本さんと西村さんが一緒に家に戻り、本気印の企画番組で驚きました。



●ここで西村さんらしい
エピソードを2つ●

牛の乳拭きをする西村さん。「牛の乳拭きは大変です
すねえ巨乳ですから」

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

作業を終えて処理室付近でも
じもじしているのですが、ど
うしたのかと思ったら、作
業用のゴム手袋を借りて手
にはめて作業をしていた西
村さんですが、いろいろな
作業をしている間にどう
やら破ってしまったようで

す。お父さんやお母さんが
近くを通るのですが破った
ことを報告しなければなら
ないの言い出せません。
カメラに向かって、「また
役に立たなかったばかりか
迷惑をかけてしまった。」
と反省しきり。困った顔を
しています。

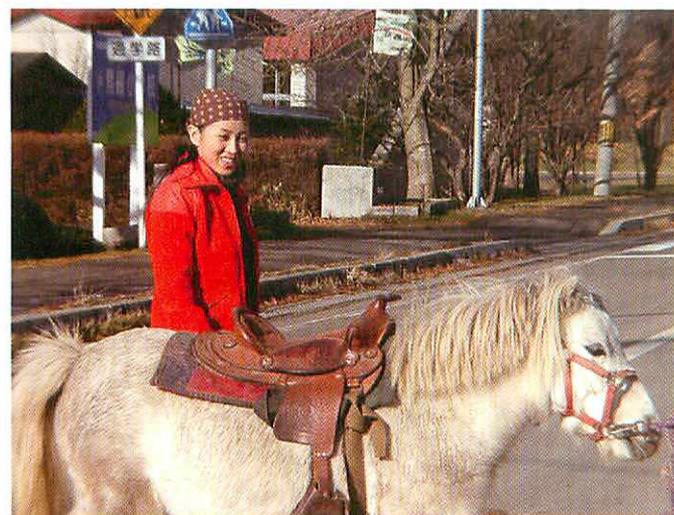
意を決して最後にお母さ
んに破ってしまったことを
伝える西村さん。お母さん
は「使い捨てだからいいん
だよ」とケロリ。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

家に戻るとお婆ちゃん
と町内に在住しているお
母さんの妹さんと、その娘
さん達が夕食の用意をして
くれました。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

食事をしながら、家族の
ことや仕事のことなどを
聞いていく西村さん。岸
本さんとは同い年という
ことで話も弾みます。丸
田さんは1日



の疲れをほぐす晩酌をは
じめました。西村さんは
お酌をしようと、お酒を
手に取りキヤップを廻し
ますが取れません。なぜ
かお酒のキヤップは引つ
張るタイプです。

そうこうしているうちに、
お酒も進み流暢な口調で
話すお父さん。すっかり、
西村さんが以前から家族
のよきな雰囲気になって
きました。その後、釧路
からお母さんの妹さんが
訪れたり、開陽の福祉会
館で会合を終

えた地域の方々が訪れたり
とわいわいの中、夜が更
けていきました。

2日目の朝は、酪農家の
朝には間に合わなかった
様子です。それでも、哺
育の世話や和牛の世話も
ミゾレ混じりの冷え込む
気温の中でこなしました。
作業の途中、お父さんに
ポニーに乗せてもらおう
約束を取り付けた西村
さんは、約束通りポニー
に乗りました。

これだけ良くして下さ
ったお父さん、お母さん
たちに、もう1つ何かを
してあげたい。

街へ出掛けた西村さん
達は取材班一行が戻って
きてから、なにやら西村
さんは部屋にこもって何
かを作っている様子。「
絶対に作業中は見ないで
下さいね」って鶴の恩返
しみたいです。

1時間、2時間。お父
さんは余裕があったらど
こかへ連れて行くかと考
えていましたが、時間が
どんどん経過します。西
村さんをひたすら待つ
みんな。帰る時間がど
んどん迫ってきました。

やっと完成したものを
持って、みんなに別れの
挨拶をする西村さん。番
組のクライマックスです。
「お父さん、お母さん、
お婆ちゃん、岸本さん
ありがとう」



北海道ではテレビ北海
道（TVH）での放送のため
中標津町内では全国ネット
と同様時刻に見ることが
出来ません。

なお、衛星放送で放映
しているのはchBS JAP
ANの1月7日（金）午後
17時55分よりご覧いた
だくことができます。ご
当地中標津がどのように
紹介されているか楽しみ
ですね。

ルーキーズカレッジ1期生のうち、今回8人が11月8日から16日までの期間でニュージーランド（以下NZ）に渡り、視察研修を行って参りました。皆様のご厚志により運営されております同カレッジですので研修のご報告をいたしたいと思えます。それぞれの視察先に担当を決めて報告いたしますのでご覧下さい。

ルーキーズカレッジ1期生が見た ニュージーランド農業の現状

●11月9日●1日目

スーパーマーケット を視察見学しました

当視 鈴木祥嗣

スーパーマーケットはクリスマス時期のせいも、広告などがクリスマス色に染まっていました。物価が安いと聞いていましたが、当初は比較対照するような物が無く、商品の値段をNZ\$で見ても、少しも実感が湧きませんでした。帰国して国内のチラシと比較する事で、確かに安かったのだと思いました。

スーパーのつくり自体は日本とそう変わりなく、そこにいるお客さんが日本人



色とりどりのフルーツ

であれば、国内のスーパーかと一瞬思えます。入り口から入った場所には、生鮮食料品売り場がありました。陳列された野菜は、日本でもお馴染みの物が多く、そこに南国特有のフルーツが並んでいたのが印象的でした。

生鮮食料品は量売りされており、例えばリンゴはkg当たり\$NZ3・69（1\$1175円）日本円で約277円でした。また、NZでおなじみのキウイフルーツは、良いものが輸出されてしまうので、はね品が目立っていました。N.Z人はそれを理解して購入しているとのことでした。日本では現在高騰しているキャベツですが、NZでは1玉\$NZ1・09でした。生鮮食料品売り場の隣にはドリンクが陳列され、日本でもおなじみのファンタに混じり、ミネラルウォーターが並び、コンビニなどにある惣菜が陳列されています。

チーズ売り場では多種多様な物が並び、中標津でもお馴染みのゴータチーズを始め、見たことも無いようなチーズが並べられています。4人家族の一般家庭ではナチュラルチーズを1週間で1kg消費するとのこと。価格も、物によっては日本の半額ほどです。この国の乳製品は大量に出回っており、価格も安くなっています。また、ヨーグルト、バター、マーガリンなども並び、各種フルーツ入りにコーヒー入りと種類の豊富さが分かりました。



品揃え豊富なヨーグルトコーナー、右端が鈴木祥嗣くん

ニュージーランドってどんな国？

大自然に恵まれたニュージーランドは、「南半球の楽園」、「地球の箱庭」と呼ばれています。国土面積は日本の約3分の2で、そこに350万人程度の人口が住んでいます。きわめて変化に富んだ地勢は、活火山、氷河、フィヨルド、森林地帯、湖、温泉などの自然的観光資源に恵まれ、国土の約1割が国立公園及び特別指定地域となっています。人口の大部分がイギリス系白人の為、英国の影響を強く受け継いでいます。生活態度は英国の伝統と同様に、質素で

合理的、保守的といえます。スポーツ、アウトドアを好み、家族を大切にするため、週末は、スポーツまたはガーデニングや日曜大工などに費やすのが典型的な生活パターンだといわれています。人々は、外国人に対してはきわめて親切です。人種に対する偏見は少なく、各民族の風俗習慣に干渉しないで生活する態度が定着しています。狭い土地柄を反映し、家庭的な交際の機会が多く、自分の家に友人や近所の人を招き、ホームパーティーやバーベキューパーティーなどを楽しまます。

と思えたでしょう。
NZの酪農家の収入が、
為替相場に影響されると言
われた事がよく分かった気
がしました。このスーパ



種類豊富な牛乳コーナーにて
フルーツ入りは標準的 吾妻秀樹くん

にはアイスなどの冷凍食品
も並んでいましたが、牛乳
だけで、このスペース全て
を占領してるのかと驚きま
した。種類も容器も最大3
Lから500mlと豊富であ
り消費量が高いことを示し
ていました。値段は日本円
に換算して、3Lで約29
0円。対NZ\$の円安が進
んでいたのも、それほど日
本と変わらない値段だとい
う実感でしたが、もし円高
であればNZは物価が安い

の視察で思った事は、乳製
品の高い需要量、その価格
の変動による農業収入の増
減。それが、この視察で自
分を感じ実感した事です。

●11月10日 ●2日目午前

シエアミルカーから
講義を受けました

俣落 原 建治

NZに行き、様々な事を
研修しましたが、私はNZ
の農政とNZ農業の特徴で
もあるシエアミルカーにつ
いて報告します。

講義してくれた方は、モ
レンスピル地方で50・50の
シエアミルカーをしている
ジェイソン・ハムさんです。
農場コンサルタントとして
4年、ファームマネージャ
ーとして2年。そして現在
はシエアミルカーをしてい
るという経歴を持つていま
す。昨年、122畝を耕作
し355頭搾乳で141千
kgMS(MSⅡミルクソリ
ッド、NZでは固形分で計
算しています)、生乳生産
量で約1千500トという
農場生産レコードを記録し

たようです。

NZの農業の特性として、
政府からの補助金がなく、
飼料・資材の価格を保証さ
れることも無い。その代わ
り、規制もありません。酪
農業でNZの輸出収入の20
%を占めています。それは、
73年にイギリスがEC加盟
したことにより旧イギリス
連邦としての優先販売権が
なくなったことで、海外市
場が縮小されたことが背景
にあります。それにより、
景気悪化と財政悪化が発生
したため、80年に国民党か
ら労働党に政権が移行行財
政改革がおこなわれました。
農業も例外ではなく、それ
までの農業保護政策が打ち
切られ、酪農も世界的競争
に向けて大変な経営転換が
必要になりました。当然多
くの農家は、収入が下落し、
多くは乗り切ることができ
ましたが、農家の主婦がパ
ートに出るなどして兼業化
したり、また、大半は規模
拡大に向かい会社形態に移
行するようになりました。
酪農協も合併が進みキウイ
とNZDB(ニュージーラ

ンドデーリーボード)が最
最終的に02年にフォンテラと
して巨大合併し、1つの酪
農協になりました。

NZは輸出促進を主張し、
関税がない自由主義経済を
希望しています。経済原理
として淘汰を基本とする自
然経済であり、現在は羊農
家が不景気のため減少して
おり頭数も半減しています



講義をしてくださったジェイソン・ハム氏(写真奥の中央)

が、輸出が伸びている酪農
家がそれらの農場を買い取
り酪農場へとシフトしてい
ます。

フォンテラは酪農家たち
によって所有され、ここに
牛乳を出荷し、酪農家は乳

価を得ています。NZは年
間を通した放牧型酪農であ
り、季節分娩を行っていま
すので1年間の乳量変動が
工場操業にとって問題であ
るとのことです。

NZの酪農業は過去5年
で、酪農家数は1千戸以上
減少していますが、1戸当
たりの平均頭数は、236
頭から302頭まで増え、
1畝当たりの牛乳生産(7
68kgMS/haから889
kgMS/ha)、1頭当たり
の牛乳生産(288kgMS
から322kgMSⅡ生乳約
4kg)とともに増加して
います。

乳価も固形分でkg当り\$
NZ3・66から\$NZ5・
35まで伸びています。平
成15年度にはNZで処理し
た牛乳は、12億kgMSあり
ました。

このように、NZでも1戸
1戸が規模拡大をしており、
それに伴って農家数が減少
傾向にあります。

土地の価格も高騰してい
ます。10年前は1畝当たり
\$NZ6千だったのが、現在
では1畝当たり\$NZ2万

千〇三万にまでなっています。

シエアミルクカーについてですが、日本では牧場主（オーナー）が経営マネージメントから実作業までのすべてをこなすのが一般的です。



フォンテラグループ企業のNZMP工場全景

が、NZでは牧場主は実作業を含めた牧場運営を信頼できる人材と綿密契約を交わし、収益は分配する（シエアする）システムを確立しています。これをシエアミルクカーといい、その人材をシエアミルクカーと呼び

ます。一般にオーナーは土地や搾乳施設などの不動産を用意し、シエアミルクカーは家畜やトラクターなどの動産を持ち込みます。この収益の分配率も農場によって様々で、2対8あるいは4対6など、シエアミルクカーが負担する費用によって変わります。

主に、将来オーナーになりたい人々がシエアミルクカーとして働いています。しかし、オーナーへの道のりは、農地価格の高騰のため大変厳しくなっています。オーナーとなる手段として、リース農場を手に入れたり、シエアミルクカー同士で資金を出し合って土地を購入したり、家族からの援助で土地を購入したりと、様々な方法で資金を調達してオーナーとなります。

農政・シエアミルクカーの話聞いて、やはりNZでは日本とは違う形態で進んでいるのだと感じました。農政にしても補助金が無いなんて、もはや日本では考えられません。的確で、先を見通せる経営マネージメ

ントが必要でしょう。シエアミルクカーの制度もオーナーになるためのステップであり、本当に能力のあるものがオーナーになれるのだと感じ、これがNZの酪農をますます発展させていくのだと思いました。

●11月10日●2日目午後

マックゴーギャン 牧場を視察しました

開陽 鈴木祥嗣

マックゴーギャン牧場には、僕を含めて原建治さん・井上直人さんと3人でファームステイすることになり、この牧場の経営概要を報告します。



牧草地の草量を測定するライジングプレートメーカーという測定器についての実践

マックゴーギャン牧場はオークランド市内から2時間程のワイカト地方のタウンピリにあり、目の前に見えるきたのは丘の上に建つ邸宅で、テニスコートが2面もあり、庭もきれいに整備されていて、すばらしい！の一言でした。日本ではせいぜい庭があつて花が植えられているのを見掛けるくらいですから。

玄関先で迎えてくれたのは、ご主人と奥さん。家族の皆さんで大変な歓迎ぶりを感じました。住宅の中は立派で大きく、住みやすいと思えました。住宅は丘の上に建っており、地続きの放牧地100畝が見渡せました。周辺の酪農家もそういう造りで、放牧管理が容易にできると思いました。飼養搾乳頭数は260頭とのことです。僕の牧場はこの数の半分もいません。NZの平均搾乳頭数は300頭とのことで驚きました。搾乳時間は朝夕2時間で、ワーカー（労働者）とマックゴーギャンさんの2人で搾乳しています。そしてパ

ーラーは20頭Wのスウィング式ヘリンボンパーラーでパーラー棟も簡単な造りとなっていました。バルククーラーは5千700畧でピーク時には毎日集荷（夜中の2時に）されています。また、施設を見ながら色々説明してくれましたが、トラクターが1台と共同購入のブロキヤス1台（3・5ト〜4ト）、乳熱を防ぐためのカルシウム散布機（放牧地に撒いて与えるそうです）くらいしか機械が見あ



3・5ト〜4トクラスのブロキヤス

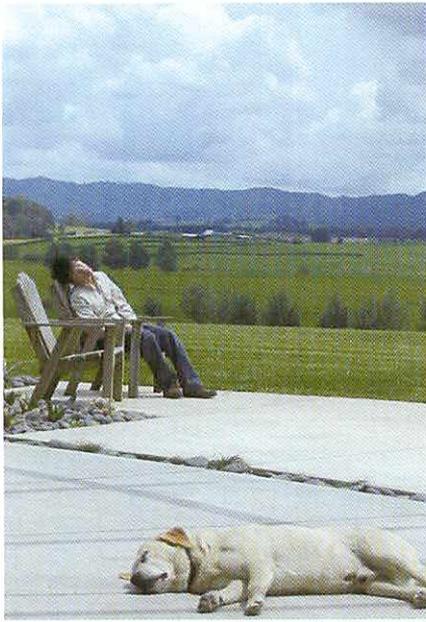
たりません。NZは、国から補助金が一切払われないため、高額な物は購入できないそうです。そのため、

最低限の物はそろえてサイレージ収穫やスラリー散布は委託しています。

近隣酪農家に別海町から国際交流協会を通じて実習生が来ていて、話を聞くことができてきました。感心したことは、乳房炎にかかる牛があまりいないことで、乳房炎の薬も1種類しかないとのことでした。

NZのこの地方は冬が温暖で雪が降らないので、乳房は汚れないようです。そして、放牧主体なので、牛自体に負担がかからず、平均産次も8産まで大事にするとのことでした。

病気の治療方法を聞きましたが、獣医さんはいますがあまり呼ばないようです。



広大なマックゴーガン牧場でうたたねする鈴木智之くん

数回治療してみてもダメであれば出してしまおうそうです。足も悪ければすぐにだしてしまおうなど、治療には費用をかけていけないそうです。

牧場を見学して感じたことは、日本の農家は国から色々補助金が受けられ、助けてもらっている反面、NZは一切支援が受けられないことを考えてみると、日本は共同利用をしていけばそれほど費用をかけずにやれるのではないかと思います。気候が違うのでNZと同じことをするわけにもいきません。ただ、放牧は牛の故障もストレスも減ると実際に見て感じることもできました。

●11月10日 ●2日目午後

フォンテラグループの酪農工場を見ました

開陽 吾妻 秀樹

ワイカト方面に移動しNZ最大の酪農組合フォンテラのハミルトン市にあるテラパ乳製品工場を見学しました。フォンテラはNZに

25カ所と世界に4カ所の工場があり、世界各国に7千人のスタッフが働いています。140もの国や地域に乳製品を輸出していて、フォンテラの02年の売上げは99億5千万\$NZであり、NZで生産された牛乳の96%をフォンテラで取り扱い、年間131億\$の牛乳を処理しています。そこから180万トンの乳製品を生産し、フォンテラグループ企業のNZMPが輸出用加工乳を生産し、ニュージーランドミルクが国内販売向け飲用乳を出荷しています。

NZは製造した乳製品の93%を輸出しており、貿易収入の23%を占めています。NZの国際市場に占める割

合は、90年の19%から、01年には31%に拡大しています。テラパ工場はNZMPによって運営されており、製造されている乳製品は、脱脂粉乳、粉ミルク、バター、無水乳脂、クリームチーズ、フロースンクリーム（アイスクリーム原料）の6種類です。



粉ミルク製品は主にアジア圏に向けて輸出されています

を開始しましたが、3号機は現在稼働を停止しています。

生産される乳製品の種類は、脱脂粉乳、粉ミルクの2種類。ミルクパウダープラントの能力は、ピークで1日当たり750万リットルの牛乳を処理し、貯蔵能力は250万リットルです。このプラントではスタッフ総勢80人態勢で24時間稼働しています。

年間にして22万5千トンの乳製品を製造することができます。プラントの1号機・2号機は、標準粉ミルクと固形粉ミルクを製造しており、能力は1日当たり130万リットルの牛乳を処理し、それから1時間当たり最大4・5万リットルの製品を製造する機械で、1日当たり180万リットルを製造することができます。4号機は、インスタント粉ミルクと固形粉ミルクを製造していて、能力が1日当たり150万リットルの牛乳を処理し、それから190万リットルの製品を製造することができます。最後に5号機は、脱脂粉乳と粉ミルクを製造していて、1日に80

●ミルクパウダープラント

テラパ工場のミルクパウダープラントは1967年に1号機、2号機が生産を開始して、1990年に1号機、2号機の規模を拡大、翌年の1991年に3・4号機の生産が開始され、1998年には5号機が生産



粉ミルクの梱包ライン

クリームチーズ7%・フローズンクリーム7%の4種類です。各製品の製造能力は、バターが1時間に6ト、12ト製造できる機械が使われ、年間にして7万トの製品を製造しています。無水乳脂は、1時間に12・5トが製造できる機械が使われ、年間10・8万トの製品を製造しています。

0万トの牛乳を処理し、そこから1時間当たり最大23トの製品を製造することができる機械で、1日当たり450トを生産しています。

●クリームプラント●

テラパ工場クリームプラントの能力は、ピークで1日当たり65万トの牛乳を処理し、スタッフ60人態勢で24時間稼働しています。年間にして75万5千トの乳製品を製造し、貯蔵能力は処理能力と同じ65万トとなっています。製造製品は、バター79%・無水乳脂7%・



クリームプラント全景

次に、クリームチーズは1時間に32ト製造できる機械が使われ、年間5千トの製品を製造しています。最後に、フローズンクリームは1時間に2ト製造できる機械が使われ年間1万トの製品を製造しています。

見学したテラパ工場は、外見が非常に大きい工場でした。また、製造する過程を見学できるよう工場内を作業場と見学者用に分けてあり、非常に見やすく現代的な工場でした。粉ミルクを製造する過程を見てきましたが印象としては、ひとつひとつの機械がとても大きく処理能力や生産力の高さが納得できました。また、作業員がほとんど見られなかったため、かなりの作業機の自動化が図られている印象を受けました。

●11月11日●3日目午前

家畜改良研究所を訪問しました

依橋 山本

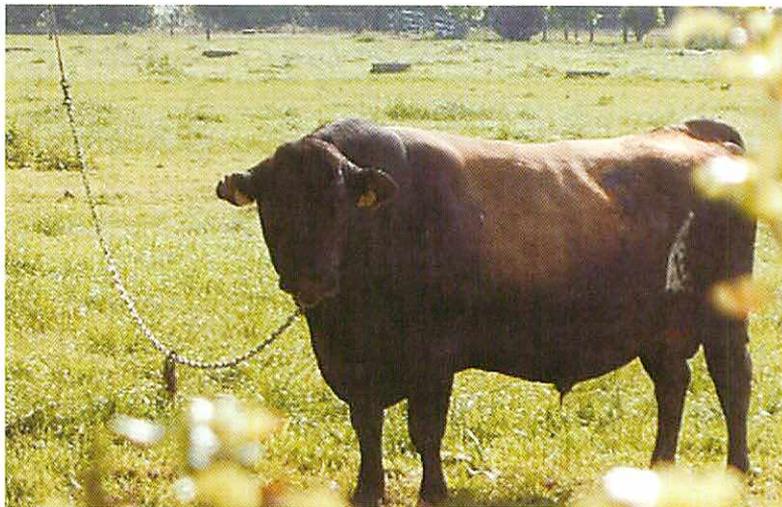
大

研修3日目、Livestock Improvement (家畜改良研究所) を訪問しました。この組織は1909年に乳検から始め1951年に精液の開発を行い始めました。10人の研究者と約500人のスタッフが働いて、忙しい時期は1千600人を雇用、オランダの研究者と遺伝の研究も行っています。

ここでは総頭数300頭、フリージアンIIホルスタイン150頭、ジャージー90頭、キウイクロス(フリージアとジャージーとの交配種)60頭の種雄牛を購入し、その中から5%を選定します。その牛達から精液を採取。採取する時は、あて牛の雌牛の上に雄牛を乗らせて人工腔をはめ込み3回目のものを精液として使用します。1、2回目はゴミや雑菌が混入する可能性があるため使用しません。1回で約5ml採取。多い牛で9mlの精液を採取します。その精液は顕微鏡で形状や泳ぎ方などをチェックし、卵黄や野菜などのうすめ液で希釈し精子100万個分を1本の

のストローに入れ、凍結しないフレッシュのものを使用します。農場に配られてから4日間は使用できるよう希釈液を開発。凍結精液(ストロー1本精子1千200万個)は輸用として生産しています。1mlあたり精子が10億個採れるため、フレッシュでストロー5千本生産できます。ニュージールランドは季節分婉なので、6週間から8週間の間で使用し、人工授精は基本的に各農家自身で行うが、大規模農家では頭数が多いので人工授精師を呼ぶそうです。

ニュージールランドは約1万3千の酪農家があり、その70%が研究所の精液を使用しています。利用者が研究所の株主となり運営しています。農家が求める精液は乳成分が高く、扱いやすい小型の牛との事でキウイクロスが好まれており、ベルシエートグラフ(分布図)を作成して乳量より乳質成分の良い血統を優先して選択し、病気の多い血統を消すようにしているとのことです。精液の価格は450



キウイクロスの種牛

り使用せず、国内で良い牛を見つけてその牛を改良しています。

各農家は、M・ノート(電子手帳)や手帳を持ち歩き牛1頭ずつの様々なデータを取っています。2カ月に1回は乳検し研究所のデータベース(MINDA)に記録され、販売する時は牛のそのデータがあるほど価格が高くなるそうです。

ドでは小型の牛を作っていることから、自分の家もパラーで搾乳をしているので、小型な牛が良いのでは？

とってはいましたが、それよりもさらにNZは小さな牛を求めている事と、平均産次数が8産で乳量ピークが80kgという数字を出していること、海外の精液をあまり使用してないことに驚きました。

を視察して思った事は、ニュージーランドでは6大栄養素(窒素・リン・カリウム・マグネシウム・硫酸・カルシウム)というのがあり、それを一番気にしなくてはならない牧草に大切なものだからです。具体的な肥培管理のことは自分自身、勉強途中なので詳しく聞き出すことはできませんでしたが、できるだけ、肥料費を削減し土壌の足りない栄養素だけを補うというやりかたでアドバイスしているように

研究所では1日1回搾乳で経営可能かどうかという研究も行っており、400頭の牛を農家に委託し実験が行われています。実際に乳量が30%減少しますが、コスト削減で所得を確保できるか調査しています。

今回研究所を視察して思った事は、ニュージーランド

●11月11日 3日目午後
NZのコントラクター
組織を学びました

中標津 縷坂直俊

NZのコントラクター組織について学んできました。講師の方は個人で経営をしているデビット・サーモンさんで、40分ほどNZのコントラクターが行う事業内容を説明してくれました。デビットさんの主な仕事は土壌分析をし、どれだけの施肥を行うか、農家に対してアドバイス(コンサルタント)しています。NZでもやはり土壌の6大栄養素(窒素・リン・カリウム・マグネシウム・硫酸・カルシウム)というのがあり、それを一番気にしなくてはならない牧草に大切なものだからです。具体的な肥培管理のことは自分自身、勉強途中なので詳しく聞き出すことはできませんでしたが、できるだけ、肥料費を削減し土壌の足りない栄養素だけを補うというやりかたでアドバイスしているように

す。また、その他にコーンの作付や収穫作業、糞尿散布、草地更新、草地の暗渠排水工事なども行なっています。

一番忙しい時期は、ちょうど私たちが研修に行った時期と重なっていました。デビットさんが言うには忙しい時期は24時間フル稼働で収穫作業をこなしているとのことでした。

は大きいようで、NZでは季節が日本と逆なので夏は1、2、3月が忙しく、冬は7、8、9月が暇な時期とのことです。収穫作業の利用料は\$NZ100/時間で日本円にすると約7千500円。そして暗渠工事は\$NZ80/時間であり、1年でこなす面積は約1千畝で、小規模のコントラであれば年に200畝と



デビット・サーモン氏(左)と通訳として全行程に同行した富子・デュローンさん

作業機のサイズは道東の地域とさほど変わらないという印象を受けました。

ファームステイ先の息子さん兄弟の農場を見学した時にちょうどコントラの収穫作業が入っていて、夜の作業を見学し、トラクターにも同乗させてもらいました。ハーベス

日本でもそうだと思うのですがNZでもコントラは暇なときと忙しいときの差

ターは外見はCASEなのですがジョンディアを赤く塗装したとのことで遊び心

も旺盛だと感じました。ハ

ミルトン地域ではコントラ
会社は小規模で15社。大規
模で2社。大きい会社はト
ラクターだけでも50台近く
もあり、驚きました。雇用
の人数も90人も雇っている
とか。ただし、日本と異な
るところは大規模酪農家は
個人で機械を持って自分の
畑の収穫をやり他の農家の
収穫作業なども行っており、
主に小規模農家がコントラ
クターを利用してしているの
ことです。

酪農が盛んな国はなんで
も大きいと感じて、初めて
異国の地を踏んだわけなの
ですが、とても良い人ばか
りでとても良い国でした。
こんな僕のようなろくでな
い後継者だとも知らずに「デ
イリーファーマー」といつ
ただけで歓迎してくれるN
Zの方の心の広さには感激
し、楽しい思い出になりました。また行ける機会があ
ればまた行ってみたいと思
いました。

●11月11日●3日目午後

ホルムズ牧場・ヤギ牧場 を訪問しました

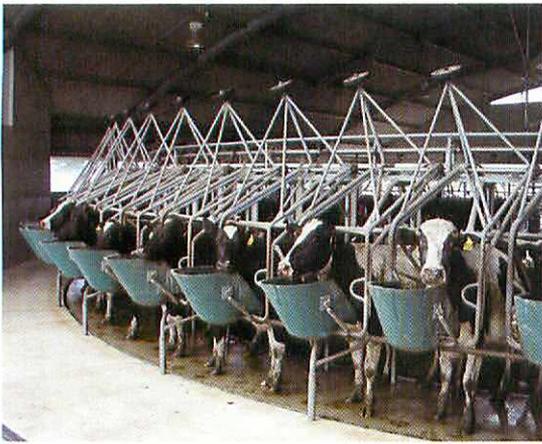
開陽 井上直人

●キース・ホルムズ牧場●

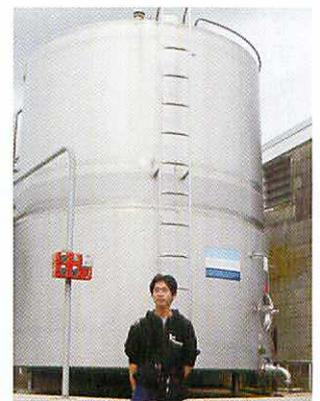
ホルムズ牧場（オーナー
＝キース・ホルムズ）では、
ワーカーと呼ばれる従業員
2人とファームマネージャー
1人を1名雇用しています。
ファームマネージャーは主
に牛や草地、ワーカーなど
の農場管理を行いシエアミ
ルカーのような利益分配は
ありません。つまり、この
牧場ではオーナーのホルム
ズさんが経営管理
を行い、ファーム
マネージャーが農
場管理をすること
で役割がはっきり
と分担されています。

ホルムズ牧場は
現在850頭の経
産牛を飼養してお
り、育成専門の牧
場に委託している
育成牛も合わせる
と1千50頭にな

り、NZでも規模の大きい
牧場に含まれます。草地面
積は300畝ですが、20
0畝は放牧用、100畝は
採草地用として使っていま
す。年間出荷乳量は固形分
で274ト（生乳生産量で
約3千500ト）、経産牛
1頭当たり1日乳量は平均
で40kg、ピーク時では80kg
になり、バルククーラーの
容量は21千トで乳量が多い
夏季は毎日集荷で少なく
なると隔日集荷になるそう
です。牛群構成についてはフ
リージアン（ホルスタイン）
とキウイクロス（フリージ
アンとジャージーの交配種）



ロータリーパーラー



21,000kgのバルククーラー
（原建治さん）

を50%ずつの割合で飼養し
ています。

搾乳は今年で3年目とな
るロータリーパーラーで2
人のワーカーによって行わ
れていて、朝は5時から夕
方は3時から始まり、それ
ぞれ3時間で終わります。
デイツピングはしておらず、
特に乳房炎等の病気がない
ため効果がなく使用しない
そうです。このロータリー
パーラーは150万ドル（約
1億1千250万円）で購
入し、ユニット数は66頭分
ありますが3頭分は出入り
口用となっており、速度は
5〜6分で1周するように
調整されています。年2回
のゴム交換と年1回のメン
テナンスで20〜25年は使え
る程度の耐久性があるそう
です。導入以前はスウイン

グ式ヘリンボーンパ
ーラーで550頭搾
乳を行っており、現
在はホスピタルシェ
ッド（人工授精用）
として使用していま
す。将来的には現状
の規模がロータリー
パーラー能力からす
るとちょうど良いので頭数
を増やす考えはないよう
です。

牛は1年を通して放牧に
出しており、放牧地は16日
周期で変えています。1畝
当たりの頭数の割合が4頭
で、NZの平均より高い割
合です。放牧が中心ですの
で余分にコーンやサイレー
ジは与えないようにしてい
るようです。雌の子牛は毎
年300頭生まれ、その内
100頭は肉用として売っ
ています。

糞尿処理については、
北島地域はツープンドシス
テムが採られています。放
牧酪農なので糞尿処理と言
うよりはパーラー廃水処理
と言うのが適切だと思いま
すが、これは素堀の貯水池
が2つ設置されていて、ま

まず第1番目の池に貯められてから上澄液を第2番目の池に流し込み、その液体



ツーバンドシステム

1つの工場のような雰囲気、周りの風景とのギャップをととても強く感じました。NZの酪農における1つの特徴が大きく出ていた牧場だったと思います。

●ヤギ牧場●

ホルムズ牧場に近隣ヤギ農家のキャンベルさんが来ていたので、快諾をいただき、ヤギ牧場を見学させていただきました。キャンベル牧場では280頭のヤギを搾乳しており、この規模で牛にするよりも180頭規模になるそうです。草地面積

をアンモニア蒸散のあとスラリー散布するシステムです。この牧場の感想はとにかく規模が大きいと思いましたが、牧場の外見からは施設が少ないせいか800頭以上も搾っているように見えませんが、実際にロータリーパーラーの中に入ってみると設備も新しく

は牧場を始めた7年前は20畝で、現在は40畝です。キャンベルさんは以前は330頭規模の酪農家でシェアミルクをしていましたが、農場の取得価格が高騰しており酪農家としての牧場の取得を断念し、土地が狭くてもオーナーになれるヤギ牧場を始めたそうです。ヤギのミルクは協同組合で粉ミルクを製造し、台湾・



ヤギ用パーラー

繁殖は人工授精を行い家畜改良研究所で管理されています。草地に撒く肥料は1年に500kg/畝で全体的なコストについても牛の半分程度で済むそうです。

ヤギ飼養の課題としては、寄生虫に対する免疫が無いため特別な対策が必要だそうで、そのため放牧ができませんとのことですが、また、目標としては2年後には現在の倍の560頭までに規模拡大

韓国・ドイツ等に輸出され、単価は1\$/kgで牛乳の3倍の価格となっています。ヤギはフリーバーンで飼養されており、毎日収穫した生草を給与しています。搾乳は22頭ダブルのスウィング式パラレルパーラーで行い、1日1頭当たり乳量は3・3kgだそうです。ワーカーは1人で1日の労働時間は10時間位とのこと。

したいと希望しています。

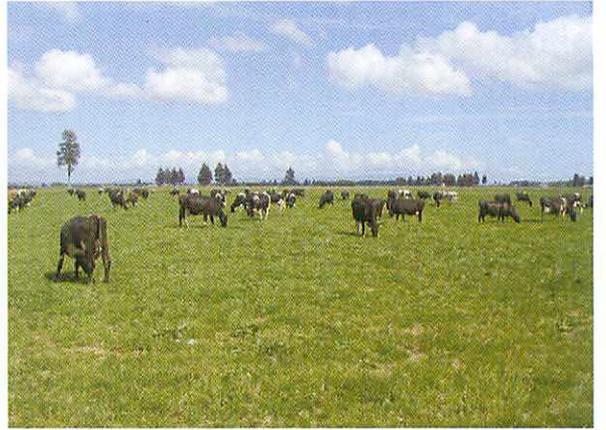
ヤギ農家を視察するのは今回が初めてでとても興味深い牧場でした。実際に搾乳風景も見学することができ、とても新鮮でした。また、フリーバーンによる屋内飼育でしたが、壁で被われていないNZらしい開放的な造りでこの風土が良く現れていると思いました。

サンフォード牧場は敷地面積64畝の粘土質の平地を持っていて、そのうち冬用飼料のサイレージとしての農地が12畝、干草用としての農地が6畝、夏のためのてん菜用の農地が4畝あり、残りが放牧場として利用されています。乳牛頭数は165頭飼養され、ほとんどがフリージアンで、何頭かはキウイクロスがいます。NZでは季節分娩をしていて、6〜7月（春先）に乾乳にして7〜8月に分娩を迎えます。約85%はとまり、出産を迎えますが、残りの約15%の牛群は何回か種付けしみてそれでもとまらなかつた場合淘汰されます。60頭の若牛のうち40頭は後継牛として置いておいて、残りの20頭は売られていきます。そして15頭のヘレフォードとホルスタインのオスの去勢牛と5頭の種雄牛が

●11月12日●4日目

サンフォード牧場を視察研修しました

侯落 松本昌志



ジョン・サンフォード牧場

ど与えておらず、サイレージも冬場、放牧場に草がなくなつた時与える程度なので餌にかかる経費が極端に少なくてすむからです。

NZの農家は酪農を1つのビジネスと考えていて、日本のように自分の子供に後を継いでもらおうとは思っていません。

そのためシエAMILカー制度が広まりました。

いました。機械はトラクターでは80馬力の2輪駆動と4輪駆動、170馬力の3台、4輪バギー、バイク、小型の草刈り機、噴霧装置、飼料用のワゴン、カフェテリアと言う哺育用の機械と数台のトレーラーがありました。労働力はサンフォードさん本人とワーカーとして地元の人と日本人実習生がいました。

NZの牛乳の乳価は日本の乳価の4分の1しかありません。理由としてはNZは1年中暖かく、ほとんど農家が年中放牧をしているために購入飼料をほとんど

ルカー制度が広まりました。NZの乳質は乳温、脂肪、タンパク、細菌、体細胞などの成績のレシートを毎回集荷者が農家に置いていきます。体細胞ペナルティのシステムは中標準より少し厳しく、バルク乳が40万以上になると即廃棄であり、処理費用として罰金を払わなくてはなりません。ちなみに見学時のサンフォード牧場の体細胞数は20万2千でした。もともとNZには乳房炎の菌は少なく、乳房炎も少ないということでした。細菌数（NZでは総菌数）にもペナルティーがあ

り、AとCの3段階に分かれていて、Cになると処理費用として罰金を払います。細菌数は基準が緩く、総菌数20万が基準となっており100万に達するとランクがCとなるそうです。

サンフォード牧場の純利益は\$NZ111175円で計算した場合、02年度で\$NZ155千（¥11、625、000）03年度で\$NZ88千（¥6、600、000）1年で利益に差があるのはNZの乳価がアメリカドルと連動していて、固形単価1kg\$NZ3・5から\$NZ3・4に下がっ

ただで経営が厳しくなる農家が増えることになりません。もう一つは、NZは放牧体系なので草が伸びる時期に天候が悪いと草の伸びが悪くなるため乳量が減ることにあります。

サンフォード牧場は労賃、授

精料、コントラ代、肥料代などが主な支出になります。サンフォードさんが経費を削減する方法としては①機械を極力買わないこと。②年に4回行われる乳質検査を年2回にする。③人工授精の期間を6週間から4週間に減らす。④機械のメンテナンスをあまり行わない。⑤夏に牛に与えるてん菜を作らない。⑥バルクの洗剤をケチる。⑦肥料代をケチる。ことと話してくれましたが日本では難しいと思います。農場を見せてもらって一番最初に驚いたのは搾



サンフォード牧場の年ナンバー



説明するジョン・サンフォード氏（中央）

乳方法です。自分の牧場ではタオルで乳頭を拭いて先搾りをしてミルカーをつけるのですが、NZでは乳頭を拭いたり、先搾りなどしないでそのままつけてしまいます。それでも体細胞があまり多くなく乳房炎の菌も一種類しかいないということですが、当たり前かもしれません。ところが同じ乳牛を飼っているのに場所や気候の違いで飼養管理や搾乳方法、乳房炎などの病気の菌まで違うのだと思いました。

この研修でいろいろな施設などを見せてもらい、よ

い刺激になりました。これからこの研修で見てきたことをいかせるように頑張りたいと思います。

●まとめに…
事務局として随行した

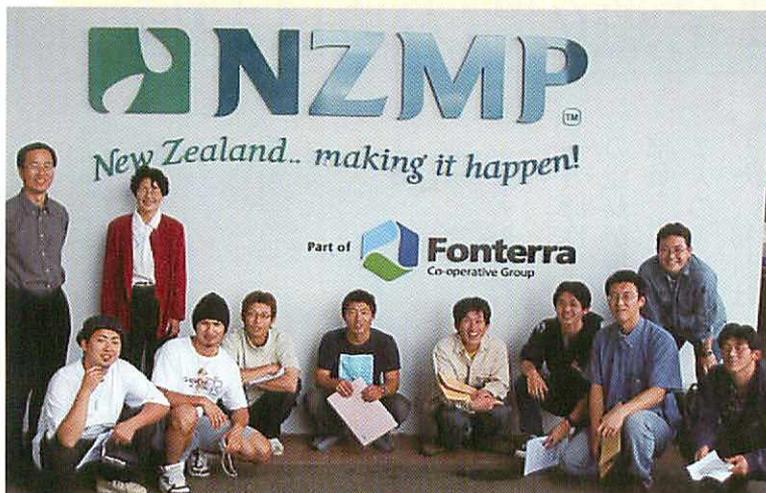
経営相談課 河西陽平

担い手創出協議会事務局として1期生の卒業研修旅行に同行させていただき、おかげさまで私自身も大きな経験を積むことができました。そして、何よりも1期生達がこの研修で大きなものを得たようで、一回り大きくなったと感じております。研修旅行が無駄にならないよう今後の中標津酪農とルーキーズカレッジの大きな発展につながるよう努力して参りたいと思います。最後になりましたが、皆様のご厚志とご理解、ご協力のもとこのような素晴らしい研修を行えたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。ありがとうございます。

旅のアルバム



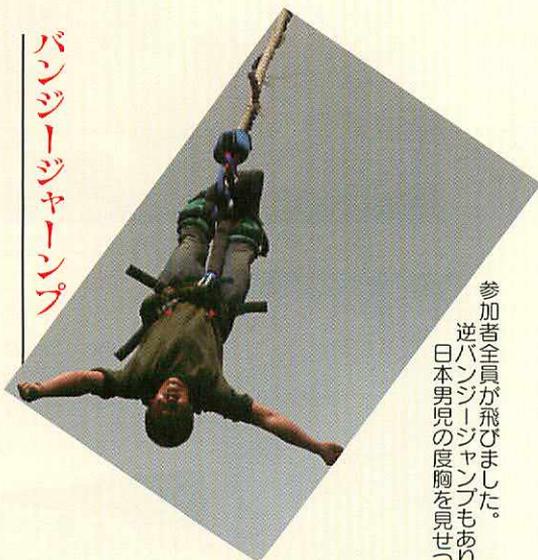
今回の団長となった鈴木祥嗣くんがNZ地元新聞社による取材を受けました



◆NZ研修旅行参加者◆

写真右から井上直人(開陽)、河西陽平(JA)、鈴木祥嗣(当幌)、原 建治(侯落)、鈴木智之(開陽)、松本昌志(第2侯落)、山本 大(侯橋)、櫻坂直俊(中標津)、通訳の富子・デュローンさん、吾妻秀樹(開陽)、国際農業交流協会の田村伸夫推進部長

バンジージャンプ

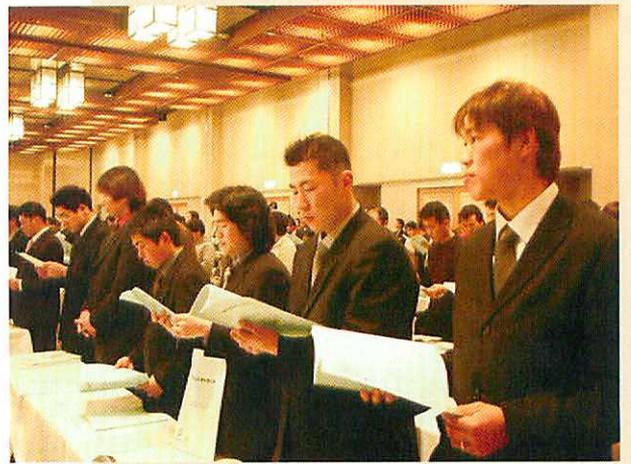


参加者全員が飛びました。逆バンジージャンプもあり日本男児の度胸を見せつけました

今回のNZ研修旅行で研修先の中心となったのは北島のハミルトン。気候が逆になるため、参加者はうっすらと日焼けして戻ってきました



第53回 全道JA青年部大会



北海道農協青年部協議会の第53回全道JA青年部大会が平成16年12月2日、札幌パークホテルで開かれ、全道各地から約600人のJA青年部員らが大会テーマの「With you〜8(いつまでも)〜」の旗の下集まり、友に語り合い、共に考え、共に明日の農業を拓くべく交流を深め合いました。

全体懇親会でさらに全道の盟友が1つに

当農協青年部からは多くの盟友が集う大会に多くの部員を出すという方針から、7人の青年部員が参加しました。初日は、青年の主張発表大会に出場した別の地区部員の発表を聞き、他地域の青年部による活動を知り、酪農畜産の分科会では全道各地の酪農・畜産を営む盟友たちから営農情報交換による事例報告、意見交換を行いました。

今回、全青協50周年事業の一環として、道青協からの意見が実現化したJA青年の歌「君と」カラオケ大会本選の出場権を賭けたカラオケ大会を含む全体懇親会が夕方から開催され、各地の盟友による1分間の青年部員による思い思いのパフォーマンスに大きな歓声が上がりました。君とを歌う歌手の千葉カズヒロ氏のミニライブが始まると、いっそう歓声が高まり2日目の記念講演ゲストとなる広瀬哲朗氏が歌に飛び入り参加するころには、会場全体が熱くなりました。



いわみざわ青年部はみごとな舞を披露しました



根室地区青協代表でJA青年の歌カラオケ大会に出場した金川誠さん上着青年部は多彩なパフォーマンスを見せてくれました



広瀬哲朗氏による記念講演

スピーチでは、根室地区を代表して佐々木大輔地区青協監事が度肝を抜く宣言をして会場をわかせました。



道青協50周年事業時に製作したメッセージフラッグにはこのような決意を込めていました



1分間スピーチに臨む佐々木監事



12月の組合動静

- 1日 地区別懇談会～3日
営農計画書作成～25日
- 2日 青年部全道大会～3日
女性部ビーズ手芸教室
- 3日 牛トレサビリティ 個体識別担当者会議
- 6日 熟年会役員会
馬鈴しょ耕作者全体会議
- 7日 農地斡旋会議
- 8日 ルーキーズカレッジ研修会
てん菜生産振興会
JA中標津機械利用組合視察研修～9日
乳牛改良同志会反省会
- 9日 第3回女性部三役会議
- 10日 農業改良資金検査
畜産セミナー
- 12日 JA中標津杯ソフトバレーボール大会
- 13日 畑作忘年会
- 14日 第3回女性部役員会
青年部反省会
- 15日 内部審査(管理部)～16日
- 16日 大根価格安定基金協議会
- 17日 役職員忘年会
- 18日 Jrホルスタインクラブウインタースクール
- 20日 第12回臨時総会、第8回理事会
- 21日 馬事同志会役員会
根室地区酪対役員会
- 24日 てん菜振興会役員会
高性能利用組合会議
- 25日 農協酪対役員会
- 30日 業務納め

理事会のご報告

開催回 第8回 理事会
開催日 平成16年12月20日(月)
開催場所 農協中会議室

〈決議事項〉

- 一・信用次期システム(JASTEM)移行に伴う貯金端末機の更新について
- 二・平成15年度共計澱粉の精算について

〈報告事項〉

- 一・第12回臨時総会の招集結果について
- 二・地区別懇談会の意見について
- 三・組合員の加入及び脱退の状況について
- 四・会議室設置に伴う電算室の改修工事について

報徳の教え

②

協力(財)北海道報徳社
報徳社の協力を得てお伝えしております報徳の教えの第2回目です。

現代社会ではほぼ全ての分野で協同組合が存在するといわれています。

人間の共同に関する本来の傾向は、わずかな土壌があれば芽吹くといわれています。そして、協同

組合の代表的なものは農業協同組合、漁業協同組合、生活協同組合であり、この3つの協同組合は同質・同根のものなのです。

文字から追っていくと共同から協同へと変わっていった理由も読みとることができます。

共

は廿(音読みでじゅう)と卅(きょう)

との合字で、廿は訓読み

でにじゅうと読むように、

十と十を合わせた合字で多いの意味を持ちます。卅は両手を揃えて物を差し出す様を示し、「伴う」のように人に従い連携することを意味します。

共同

は2人以上の者が、1つのことに一緒に活動すること。

協

はカ(きょう)力(ふし)を合わせて十(ふし)集めるの意。同心の者が合い和合すること。

協同

は2人以上の人や団体が、1つの仕事のために心や力を合わせることに。

このように、協同は自らの意思を大切にして、同じ心を持つ者が力を合わせる意味を持つことが伺えます。

掲示板

イベント情報・公募・売り買いなど、組合員の便利な掲示板として皆様から様々な情報をお待ちしております。

根室管内農業賞を受けられた開陽の高平幸夫さんよりJA中標津担い手創出協議会に対し担い手の育成にご活用下さいとご厚志をいただきました。誠にありがとうございました。

JA根室地区青協のスポーツ交流会で優勝

JA中標津青年部

JA根室地区青年部連絡協議会の主催する平成16年度スポーツ交流会が12月11日、町内のウコボウルで開かれ、当農協青年部からは9人が参戦し、チ



ム戦で優勝と3位という好成績を残しました。例年、この時期に根室管内部員間の交流を目的として開かれるもので、昨年度のこの大会は、当農協青年部の盟友の結婚式が重なったために参加しませんでした。

1年振りとなったこの大会ですが、1昨年前にも優勝しており、今年も上位入賞を総ナメしようという計画で3チームの構成を行いました。調子の良かった人、悪かった人といいますが、優勝と3位という上々の結果になりました。来年こそは上位独占を狙いましょう。



第9回 JA中標津杯 ソフトバレーボール大会

中標津町営体育館

当農協が後援し、中標津町ソフトバレーボール連盟が主催する第9回目のJA中標津杯ソフトバレーボール大会が12日、町営体育館で開かれ、町内のソフトバレー愛好家たちが熱戦を繰り広げました。

毎年、この時期に開かれる同大会を1年の締めくくり、汗を流す愛好家が多く町内の大会では1番とも言えるチームの参加があります。今年も混合青年の部で29チーム(うち農協推薦9チーム)、混合壮年(青年)の部で12チーム(うち農協推薦4チーム)がエントリーしました。

混合青年の部は、9ブロックに分かれてのリーグ戦で上位1チームが2次予選リーグへ駒を進め、混合壮年の部は4ブロックのリーグ戦の上位2チームが決勝トーナメントへ進める要領になっておりました。

熱戦を制したのは以下のチームです。おめでとうございます。

◆試合結果◆
●混合青年の部 1位ハピネス、2位しんきち、3位G1UP ヤングマン
●混合壮年(成年)の部
1位中標津JV、2位SNAP(MCM)、3位笑A KSC

「ホルスタインクラブ」ウインタースクール開く

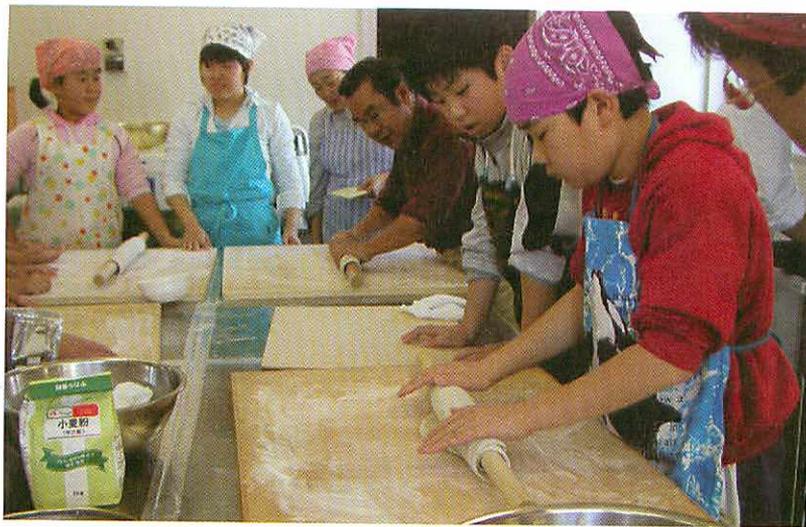
JA中標津クレエ

中標津ジュニアホルスタインクラブ ウインタースクールが12月18日にJA中標津 農村交流施設「クレエ」にて開催されました。



今年例年行なわれていた親子陶芸教室とは趣向を変えて、講師に社

団法人 ジェネティクス北海道本所 業務部 宮本敏文 業務部長を講師に迎えて講習会を開きました。また、講習会後のレクリエーションでは再び宮本部長を講師に迎えて、春に蒔き、会員



達が秋に収穫したそばの実を製粉しての「そば打ち体験」を行ないました。最初は、会員達もそば粉と悪戦苦闘していましたが、行程が進むにつれて講師から褒めの言葉を頂く会員も。そうして出来上がったそばは非常に美味しく、ちよつと早い？ 年越しそばを満喫して大盛況のうちに閉幕しました。

開陽の有志が高平夫妻の 受賞祝賀会を開きました ウエディングプラザ寿宴

昨年12月号に掲載の根室管内農業賞を受賞した高平幸夫さんを祝おうと開陽の有志（酪対など）が平成16年12月8日に祝賀会を開きました。



恒例、JA青年部の 反省会を開きました ウエディングプラザ寿宴

青年部の年末恒例行事となつている反省会が平成16年12月14日に例年通りウエディングプラザ寿宴で開かれ、青年部員、じやがいも伯爵まつり&ふれあい広場に参加協力されたJA職員さんを合わせて約40人が参加し、大いに盛り上がりました。



1昨年は、農協の役職員忘年会と開催日が重なったことから職員への参加がありませんでしたので、慎重に日程を選びました。業務多忙のなか、参加していただいた職員の皆様に感謝いたします。青年部の取り組みを知っていただき、少しでも部員との交流が図られる場となり良かったかと思ひます。

3月の沖縄宮古島で パークゴルフを満喫

農協観光

N TOUR (エヌツアー)の農協観光杯パークゴルフ大会が3月、沖縄の宮古島で開催されます。釧路空港発着で3月9日出発の行程で大会参加ツアーが組まれますので、1足早い常夏気分を味わいながら、パークゴルフ大会に出場してみたいかがでしょうか。

旅行代金 大人14万円。募集締切は2月23日、詳細については農協観光までお問い合わせ下さい。TEL 0154(24)1175

編集雑記

皆様あけましておめでとうございます。1年の始まりに、新年の特集としてルーキーズカレッジ1期生のニューズジャーナド研修旅行に参加して、それぞれが体感したことなどをご紹介いたしました。誌面では伝えきれなかつたことも多いですが、近日中にも、参加者より報告会開催のご案内があるのではと思います。

また、違った視点で報告されると思います。酪農郷なかしべつが今後発展し続けていくためには、協同の精神に集う若い人たちの活躍なくしては考えられません。JA中標津担い手創出協議会の各種活動に賛同され、ご協力いただいている方々にこの場を借りて、御礼申し上げます。誠にありがとうございます。今後ともご指導の程を宜しくお願い申し上げます。(ま)

タイムスリップギャラリー vol.4

先月末で販売が終了しましたので、今回でタイムスリップギャラリーを終了といたします。
なお、事務所玄関ではしばらく掲示しておりますのでご覧下さい。



●弾正原牧場(北進)



●保科牧場(新生)



●高藤牧場(協和)



●志賀農場(北武佐)

Q クイズ

1月21日まで先月号のクイズの回答を募集しています。同封の解答用紙または、紙に答えなどをご記入の上、事務所備え付けの応募箱または、FAXにて経営企画課までご応募下さい。